統合的高信頼化設計のための モデル化と検出・訂正・回復技術

研究代表者　安浦　寛人
九州大学 大学院システム情報科学研究院

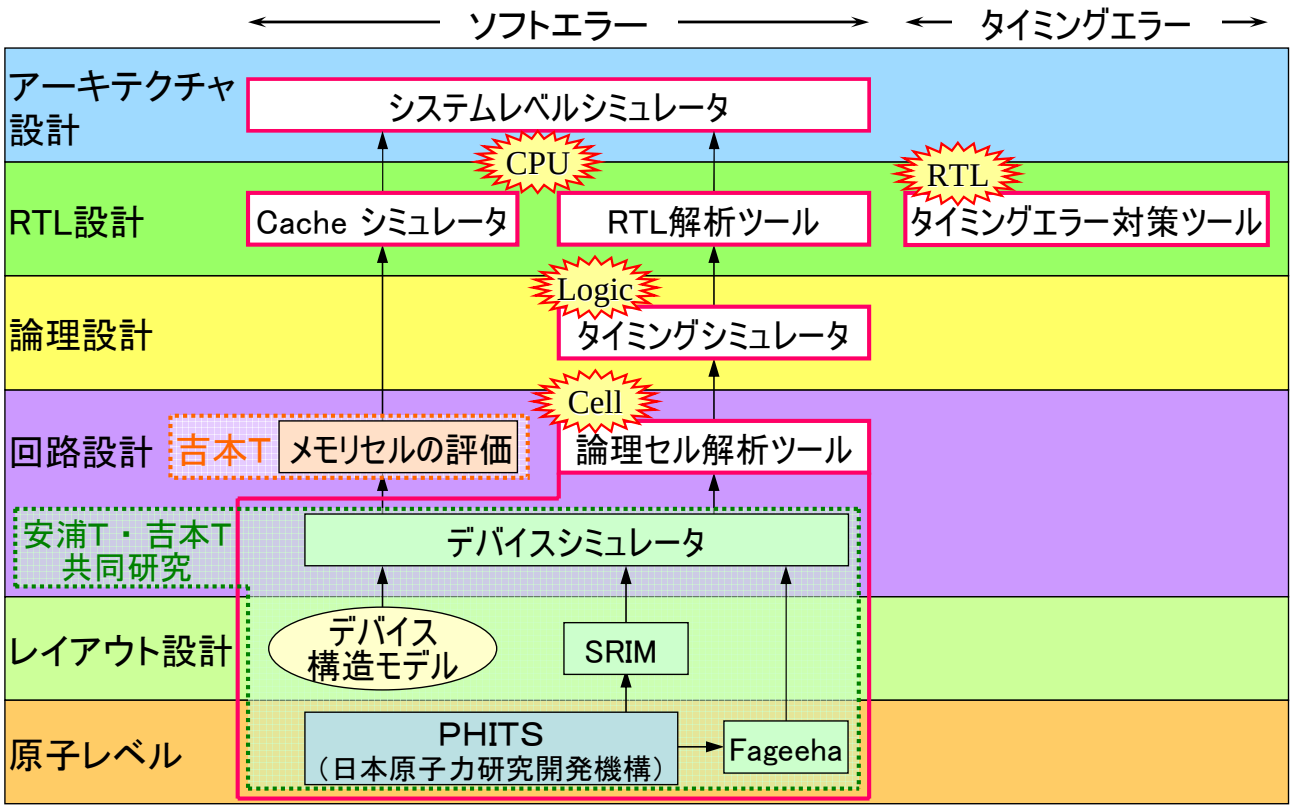
研究メンバー

- 九州大学 大学院システム情報科学研究院
  安浦寛人教授、松永裕介准教授、吉村正義助教
- 九州大学 附属図書館
  馬場謙介准教授
- 九州大学 システムLSI研究センター
  杉原 真 准教授
- 福岡大学 工学部
  佐藤寿倫教授、林田隆則助教

研究の目的とアプローチ

- さまざまな種類のエラー（製造故障、ソフトエラー、タイミングエラー、設計誤り、不完全な仕様に基づく誤り、悪意のある攻撃など）に対して、統一的な視点からディジタルVLSIシステムのディペンダビリティを確保するための設計技術の確立を目指す。
- ディペンダビリティの解析と対策回路の合成を行うEDAツールを核とした、ディペンダブルLSI向け設計フローを構築する。
- 具体的な問題から、一般化、ツール構築、フロー構築へ展開する。

ツールチェインの構築



Cell

セルレベルのキャラクタライズ

SLRC

ソフトエラー耐性の評価

セルライブラリ中の各セルに対し
あらかじめパルス幅と遷移時間に対する
パルス発生確率をキャラクタライズしておく

セルレベルのソフトエラー故障モデル

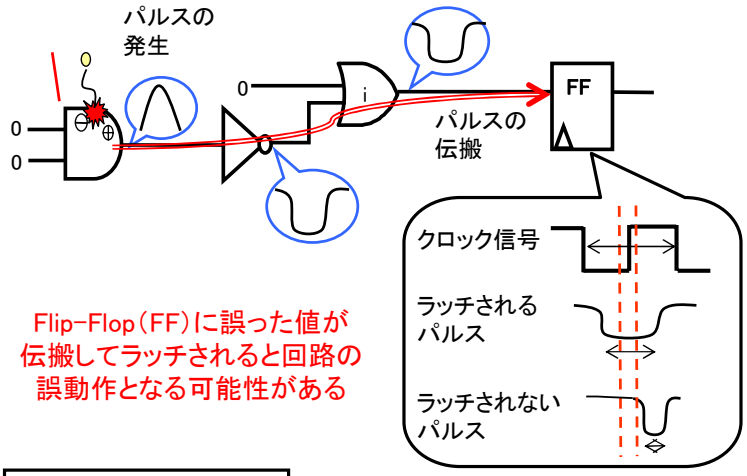
ネットリスト

論理回路のパルス伝搬解析および順序回路のソフトエラー解析

Soft Error Rate（SER）

キャラクタライズした各セルの
パルス発生確率を用いて与えられた
ネットリストに対する SER を評価する

論理回路のソフトエラー



Flip-Flop（FF）に誤った値が
伝搬してラッチされると回路の
誤動作となる可能性がある

パルスのラッチ確率は
クロック周期に対する
パルス幅の割合に依存

パルス幅ごとのパルス発生確率と
パルス伝搬確率を考えることが重要

Cell

セルレベルのキャラクタライズ

SLRC

ナイーブなツールチェイン

環境条件

セルのデバイスモデル

PHITS
日本原子力研究開発機構

中性子衝突による2次イオン輸送計算

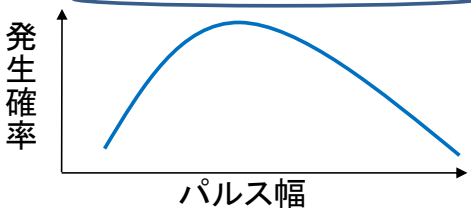
電荷分布モデルの作成

数日～1週間

デバイス・回路混合シミュレータを用いたパルス波形の計算

…

幅ごとのパルス発生確率



問題点

高い精度を得るためには十分な数のシミュレーションが必要

提案手法

領域ごとの収集電荷量を用いたノイズ電流モデルの近似

数秒

回路シミュレータを用いたパルス波形の計算

提案手法を用いることで
数千から数万サンプルを
一日で実行可能

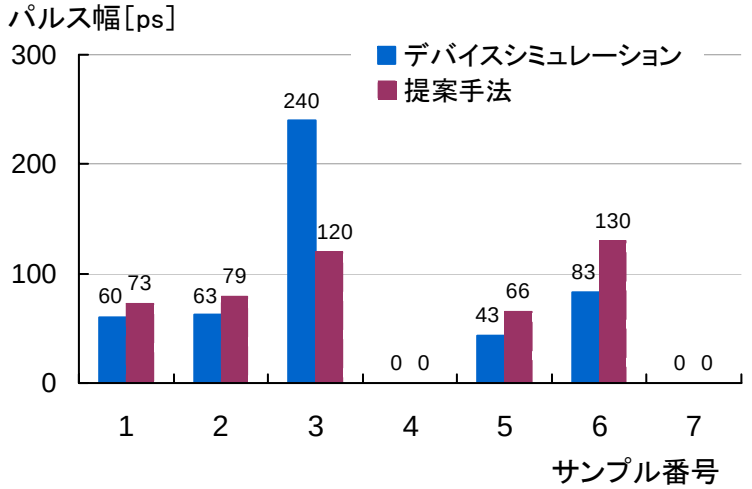
Cell

提案手法のパルス幅見積り精度

SLRC

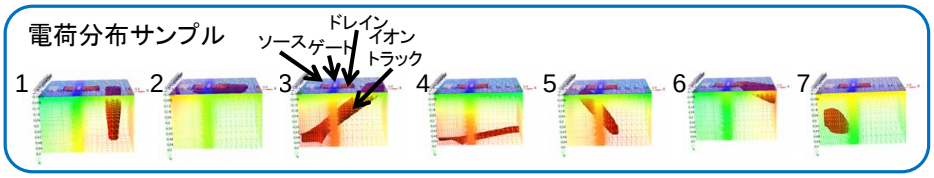
・実験内容
各電荷分布に対し、提案手法で求めたパルス幅とデバイスシミュレーションで求めたパルス幅を比較

・設定
デバイス：65nmプロセスのインバータのNMOS
二次イオンのLET値：0.11[pc/um]
デバイスシミュレータ：Silvaco社ATLAS



見積り誤差
約20～55%

見積り精度
向上を図る



Logic

論理レベルのソフトエラー耐性評価

SLRC

ナイーブなツールチェイン

ネットリスト

セルレベルのソフトエラー故障モデル

故障(SEU or SET)のサンプリング

SET(幅，箇所)

SEU
(箇所)

タイミングを考慮した組合せ回路の故障シミュレーション

FFの反転情報

順序回路の故障シミュレーション

…

Soft Error Rate(SER)

問題点

- 1回のサンプリングに対する故障シミュレーションの実行時間は論理シミュレーションの実行時間と同程度
- 十分な精度を得るためには数千から数万のサンプリングが必要

提案手法

全パタンを同時に考慮したタイミング故障シミュレーション

全セルを同時に考慮した論理故障シミュレーション

マルコフモデルを用いたSERの計算

論理シミュレーションに対して数倍から10倍程度の実行時間を目標

Logic

全パタンを同時に考慮したタイミング故障シミュレーション

FFへのパルス伝搬確率の計算において
logical masking を考慮すると
処理時間 ∝ 外部入力パタン数
∝ exp（外部入力数）
外部入力数に対し指数的に増大！

提案する近似手法
・electrical masking と latch-window masking のみを考慮
・処理時間 ∝ ゲート数　・・・ 外部入力数とは無関係
logic masking の影響を無視するので悲観的な見積り

評価結果　伝搬確率を過大見積り　113%～580%
logical masking の影響の大小で大きく変化

全セルを同時に考慮した論理故障シミュレーション

ランダムサンプリングした外部入力パタンの集合を用い、logical masking のみを考慮した論理故障シミュレーションとタイミング故障シミュレーションの結果からFFへのパルス伝搬確率を計算

ナイーブな厳密手法
・全ての外部入力パタンとゲートの組合せに対しゲートの出力値のエラーが外部出力やFFへ論理的に伝搬するかどうかを調べる
・処理時間 ∝ ゲート数^2 × 外部入力パタン数

提案する近似手法
・各入力パタンに対して全てのゲートを2つに分類
(A) 出力値のエラーが外部出力やFFへ「伝搬しないゲート」
(B) 残りの「伝搬する可能性があるゲート」
・(B) を全て「伝搬するゲート」と見なし、
ソフトエラー耐性の悲観的な見積りを保証
・処理時間 ∝ ゲート数 × 外部入力パタン数

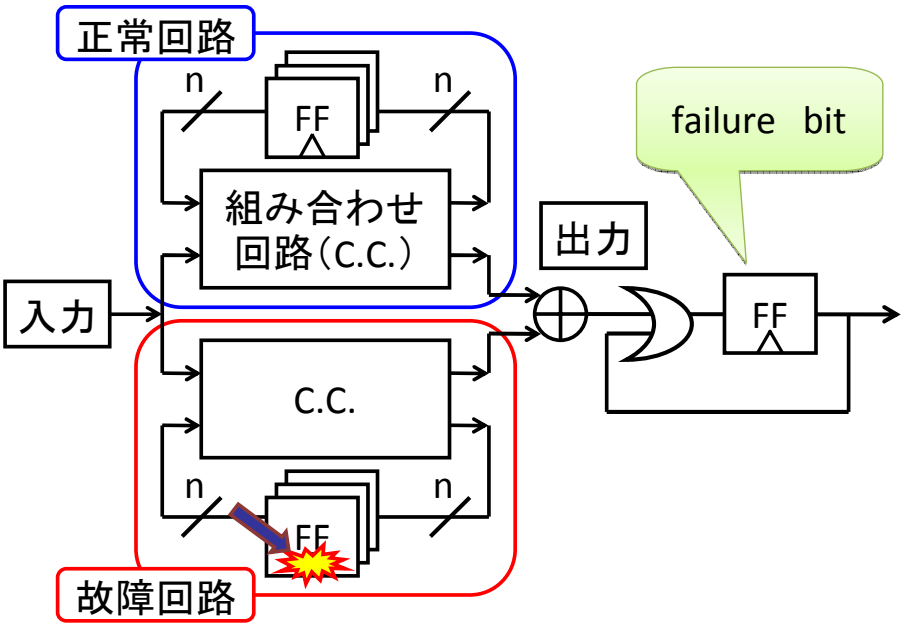
評価結果
伝搬するゲート数　平均114%（厳密手法より14%多く見積る）
処理時間　平均　15%（厳密手法の1/ 7程度に短縮）

Logic

マルコフモデルを用いたSERの計算

ソフトエラーの影響によってFFがエラーを保持した場合に、外部出力にエラーが伝搬する確率を計算

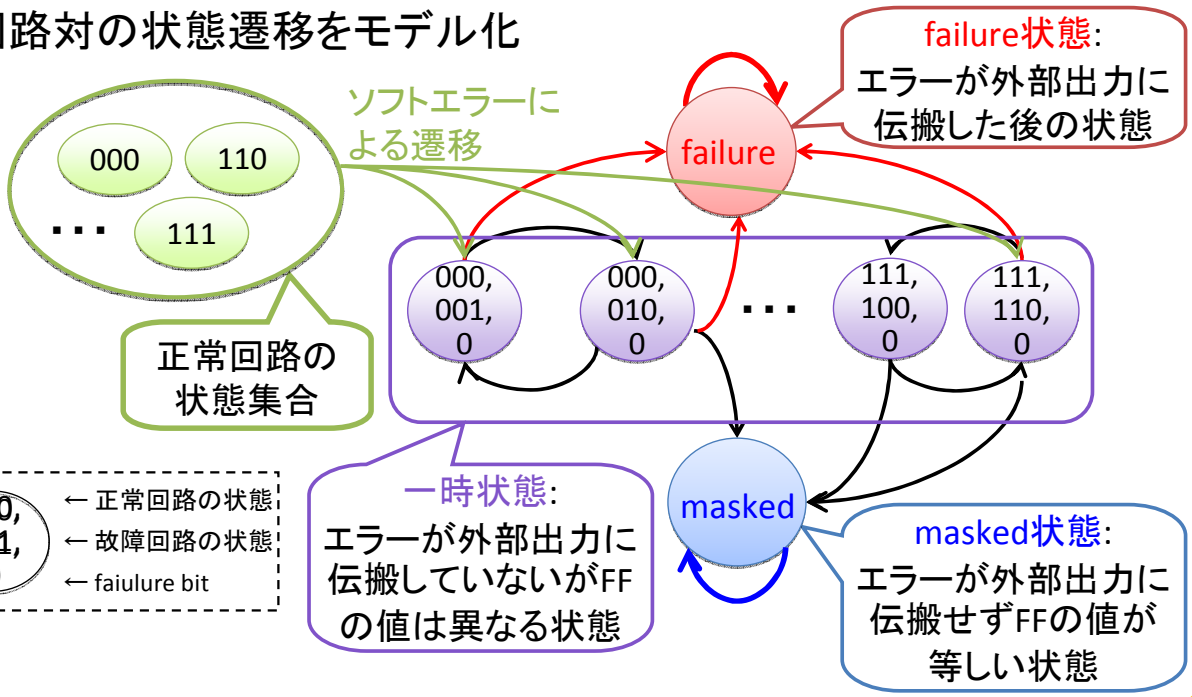
修正回路対



Logic

吸収的マルコフモデルを用いた修正回路対の状態遷移の振舞いの解析

回路対の状態遷移をモデル化

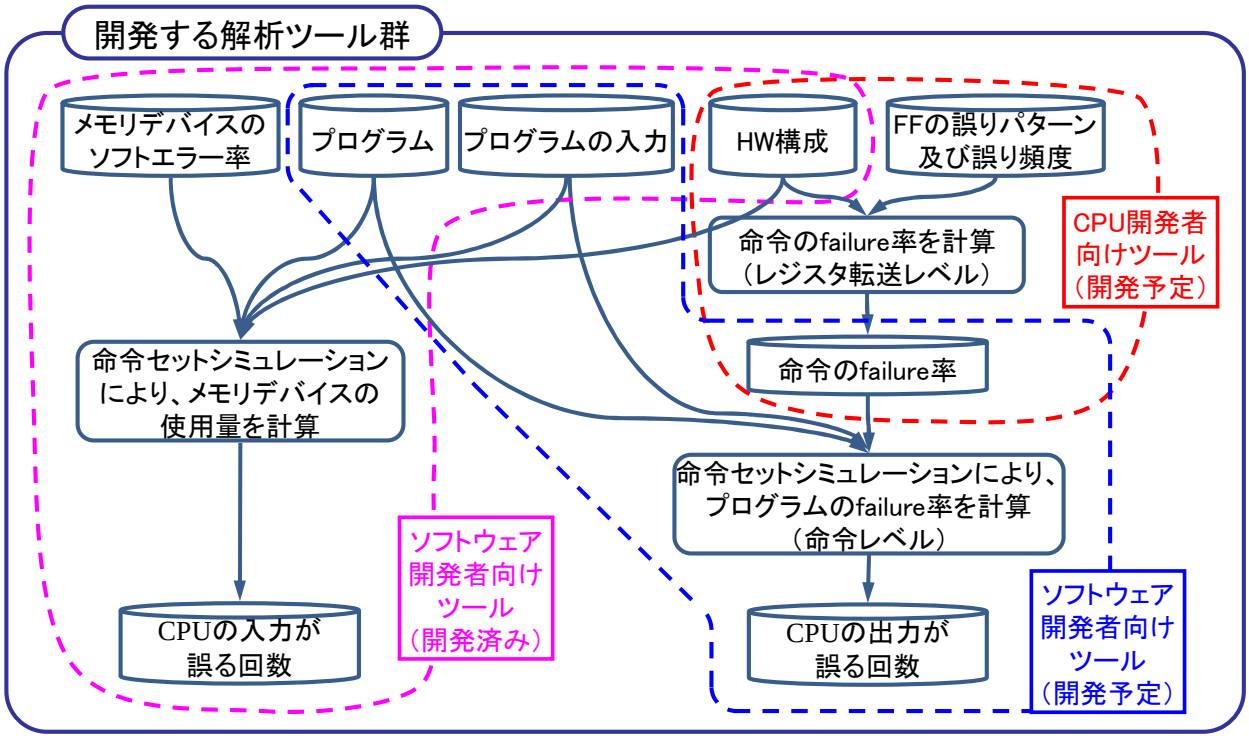


外部出力にエラーが伝搬する確率 ＝ failure 状態に吸収される確率

CPU

CPUのソフトエラー耐性評価

研究の狙い: 最もよく用いられる部品の一つであるCPUに対して、ソフトウェア開発者が容易にソフトエラー耐性評価を行うことを可能にする



CPU

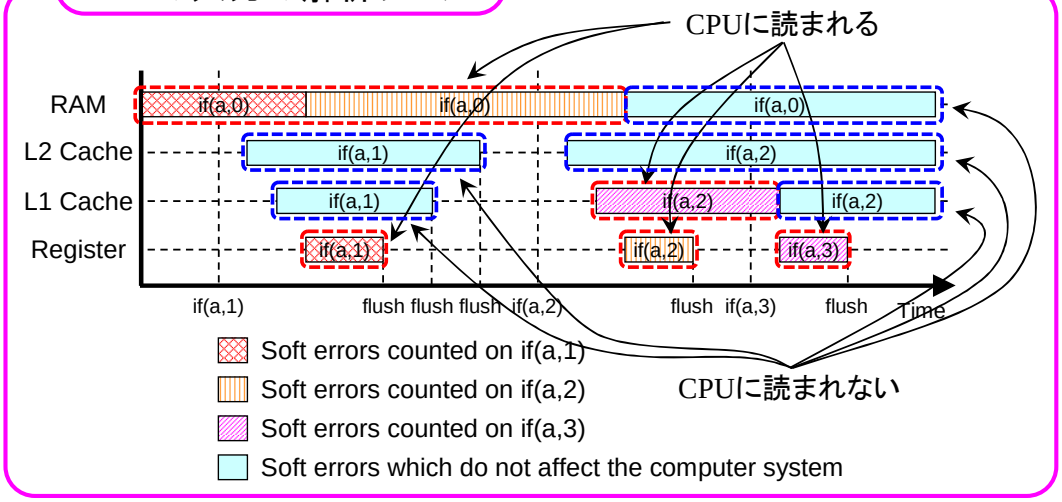
CPUのソフトエラー耐性評価

SLRC

研究の独創性

- 論理レベルのソフトエラー耐性評価によって取得するCPU中のFFの誤りパターンおよび発生頻度を命令レベルのソフトエラー耐性評価に用いる
- ソフトウェア開発者が命令セットシミュレーションによってソフトエラー耐性評価を行うことができる

CPUの入力の解析ツール

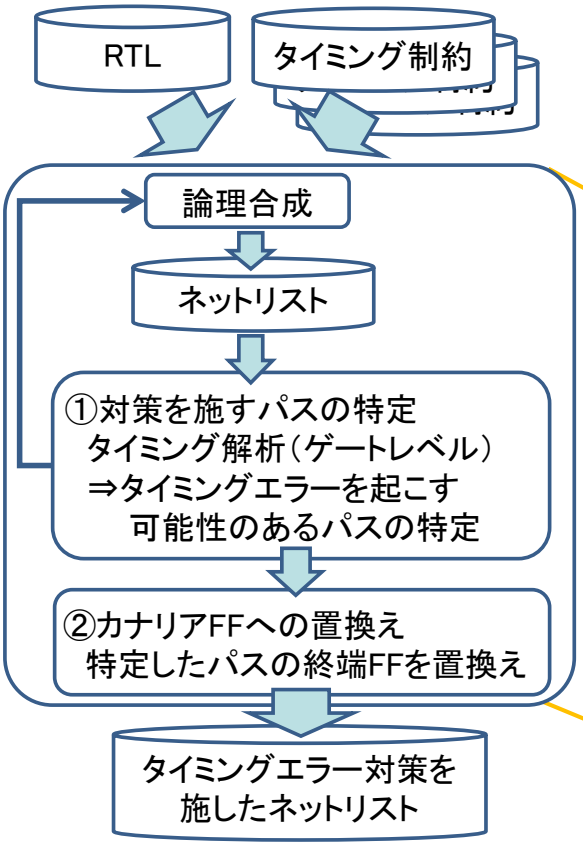


商用CPUの解析ツールとして本ツールを開発することを希望しているために、共同研究先を探しています。

RTL

タイミングエラー対策

SLRC



背 景

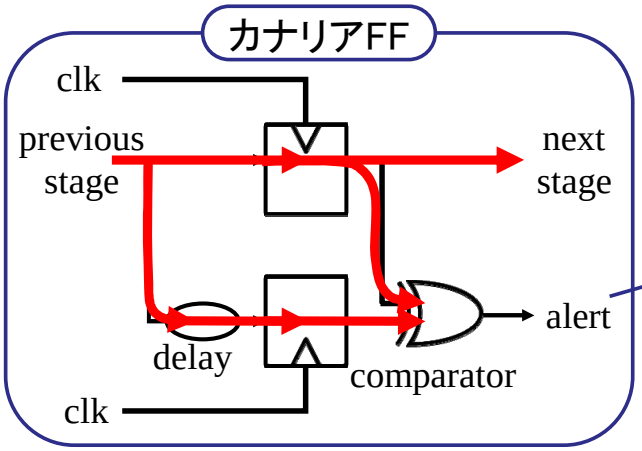
- 先端微細化技術では，ばらつき問題が深刻
- 動作環境や履歴によって，回路性能に差
- タイミングエラー ⇒ 動作不良が顕在化

置換え手順

- 要求される信頼性に応じてタイミング制約を与える
- 与えられたタイミング制約の一つに対してネットリストを合成する
- タイミング解析結果とタイミング制約から対策を施すパスを特定する
- 残りのタイミング制約に対してネットリスト合成とパス特定を繰り返す
- 特定したパスの終端FFをカナリアFFに置換える

RTL

耐タイミングエラーFF



遅延素子の挿入により下方のFFのタイミング制約が厳しくなるように設計する

2つのFFの出力が異なる場合、前段の回路のタイミングエラーを警告する

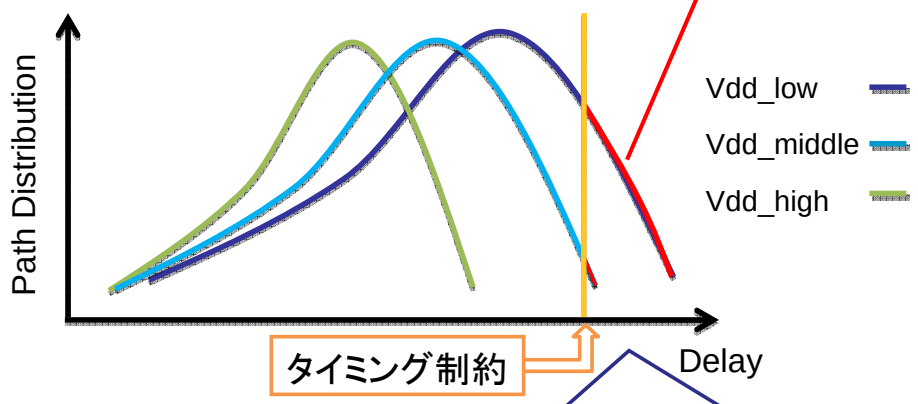
効 果

- 設計時に想定困難なタイミングばらつきの考慮を軽減
- 面積増加を最小限に抑制
- DVS（Dynamic Voltage Scaling）と協調させることで設計マージンを排除し、省電力化
- 経年劣化による動作不良の予測にも適応可能

RTL

カナリアFFの置換え位置決定手法

様々なシナリオでワーストケースによるタイミング解析を行い
タイミングエラーを起こす可能性のあるパスを特定する



タイミングエラーを起こす可能性のあるパスの終端FFを全てカナリアFFに置換える。タイミングエラーを生じるシナリオになった場合、カナリアFFが警告を発し、正常動作を保証できる限界の電圧を検出できる。